

第 10 回定例教育委員会 会議録

開催月日 令和 3 年 11 月 10 日（水）

開催時間 午後 3 時 30 分から午後 4 時 35 分まで

開催場所 教育委員会室

出席委員 教育長 三井 孝夫
教育長職務代理者 佐藤 喜美子
教育長職務代理者 岡部 和子
委員 松坂 浩志、小澤 幸子、長澤 重俊

出席職員 教 育 次 長 小田切三男
教 育 監 中 込 司
教 育 監 手島 俊樹
理 事 降 籬 友宏
次長（総務課長） 藤原 鉄也
義務教育課長 秋山 克也
高校教育課長 高見澤圭一
高校改革・特別支援教育課長 保坂 一郎
総務課総括課長補佐 武井 俊人
総 務 課 主 査 新海佐貴子

義務教育課
人事管理監 渡辺 安人
管理主事 小澤恵美子
高校改革・特別支援教育課
課長補佐 加藤 幸一

傍聴人 1 名

報道 0 名

会議要旨

〔 教育長開会宣言 〕

議案第 17 号は個人情報に関する案件、報告事項 9 及び 10 は訴訟あるいは人事に関する案件である旨が教育長から発言され、出席委員全員が了承のうえ非公開とした。

1 議 案 第 17 号 職員の処分について

〔説明〕 義務教育課
(非公開：会議の要旨)

職員の処分について、事案の経緯、処分の概要、今後の対応等の説明を受け、全委員の賛同により原案どおり決定された。

【原案どおり決定】

第 18 号 令和 4 年度山梨県公立高等学校等入学者募集定員について

〔説明〕 高校改革・特別支援教育課

- 佐藤委員 募集定員の減少というのは、年々の生徒数の減少によってやむを得ないと思うんですけど、今までのように10人、10人で減らさずに、各科から1人ずつとか、クラス編成に影響がないようにという配慮がすごくいいことだなというふうに思いました。とても配慮を感じました。それから2点ばかり質問なんですけれど。隣接都県の募集とか、全国募集を、ここ何年かやってきた中で、その実績を踏まえて、今後の見通しといたしますか、何かあるようだったらお話を聞きたいということです。
- 保坂課長 隣接都県の募集なんですけれども、令和3年の実績で申し上げますと北杜高校で受検者が6人おり、実際の内定は5人。身延高校は1人受検に対して内定1人。上野原高校も受検1人に対して内定1人というのが令和3年、今年の入試の実績でした。さらにその前になりますと、学校別ではないですけど、令和2年の入試の時は受検者が14人に対して、内定は12人。その前は19人に対して15人で、10人を超える志願者がいる場合もあるという状況になっております。それから全国募集につきましては、令和3年度の入試から始めて、韮崎工業で6人の応募がありまして、6人とも入学しております。今年度についてはこれからですので、まだそこは分からないという状況でございます。
- 佐藤委員 工業や農林、商業は応募がなかったと、さっきおっしゃっていましたが、PRといたしますか、そういう形で何か特に力を入れていることはあるんでしょうか。
- 保坂課長 受検生にも分かりやすいチラシを作り、ホームページへの掲載や、各都道府県への配布、また山梨県の出先機関である東京事務所を通じての配布などにより広報しております。
- 佐藤委員 今、高校の特色づくりということがよく言われているのですが、たぶん自分の学びたい学科を求めている生徒さんっていると思うので、できるだけ高校の特色づくり、学科の特徴とか、長い見通しの中では少しずつそういう色を出していただいて、県外の生徒さんにも、あっ、ここで学びたいというような、そういう目標になるようなところをぜひ出していただきたいなと思います。甲府西高校のバカロレア、甲府第一高校の探求科、ああいうところが少しずつ定員がまた減ってきているようなんですけど、海外大学ということだけじゃなくて、地域の課題に対して課題解決型の思考判断、表現の力をつけるとか、何かそういう人材の育成とかも視野に入れて育てていくようなことをぜひお願いしたいと思いました。よろしくをお願いします。
- 長澤委員 韮崎工業高校は、レスリングとは関係ないですか。なぜ韮崎工業高校だけ、こんなに来るのかなと思いました。
- 保坂課長 レスリングの関係で、県外から応募されたりしています。
- 松坂委員 今年の中学卒業者の数というのは何人ぐらい、前年度に比べてどのぐらい下がっているんでしょうか。
- 保坂課長 今年の中学卒業者は7,090人でございます。これは前年と比べて38人減る見込みです。
- 松坂委員 そうすると今、定員を30名減らしたというのは、0.6パーセント定員数を減らしていると思うんですけど、それに起因して出すという考え方の一つということですか。

保坂課長 全体の定員の定め方ですが、7,090人という卒業見込者がおります。その中で高校に進学する子の率というのが概ね90パーセントですが、まず高校に進学する子どもの率というのを掛けます。そして公私立協議会で、公立高校と私立高校の比率を定めておまして、その比率に基づいて全体の定員を定めるという流れになっております。その計算により、最終的に今回の5,250人という数字を出しております。

松坂委員 この決め方をこのままで今後も続けていくと、今言ったように生徒の希望に沿って定員に満たないところを必然的に減らしていくということにつながっていくわけですね。それが良いか悪いかという議論もだし、その考え方をずっと踏襲していった方が良いのかどうか。今後、例えば人気のない学校は人数を減らしますとなるわけですね。卒業生が減っていくから、この決め方でいくと定員に満たないところの学校の定員数を減らしていく、それが結果としてここに反映されますということになるんですけど、それで良いのかどうかという議論をした方が良いのではないかと思います。例えば県内で工業高校生を沢山採りたいという会社があっても、工業高校が不人気になり定員をどんどん減らしていくと、片や工業高校生をなるべく育成しましょうという進め方と、基本的な考え方がすれ違う、マッチしなくなる可能性がありますので、戦略的にこういう考えの下こう進めようという意思を決める中に反映させないと、単純にやってみたら人数が減っていくから学校も不人気になってしまった、しょうがないよね、という話になってしまうので、もう少しどう山梨県の人材育成をもっていくんだというような考え方にリンクさせて、少し考え直した方が良いのではないかと思います。今回こういった形で定員を決めると定員は必ず少なくなってくるということだから、そうすると不人気の学校は消えていきますよという話になるので、学校が独自に人気が出るように取り組まないといけない状況に自然となることが良いのかどうかという問題もあるかなと思います。そういうことを少し今後、議論した方が良いのではないかと感じます。

保坂課長 ありがとうございます。
中学校の卒業生が、これから減っていくことは分かっております。見込めるということですが。今回は30人という小規模でしたので、あまり影響がないようにということで配慮したんですけども、かなり規模が大きい削減にならざるを得ないことがこれから見込まれておりますので、委員がおっしゃったように全体的にどうしていくのかということは、そこは避けて通れないことだと思っております。ただ単に定員が割れているから、そこを削っていけばというものではないと。全体のバランスを見ながら、また地域の核にもなるものですので、色々な方向を見ながら決めていかなければいけないものだと思います。

松坂委員 次に踏み込んで、その基本的な考え方を例えば来年に打ち出そうとか、いつ出そうとかという、ある程度の期限を決めながらやらないと、常に同じ議論ばかりになってしまうと進歩がないものになりかねないので、期限などを決めながら考えたほうが良いのではないかと思います。よろしくお願いします。

保坂課長 はい、分かりました。

教育長 教育基本構想の話をし説明したほうが良いのではないですか。

保坂課長 山梨県公立学校長期構想2020というものがございまして、これについては1学年の適正規模が160人から320人という基本がございまして。長期構想については向こう10年間とは書いてありますが、具体的にどこの高校を統合するとかということには触れられておりません。ただ、子どもたちが減っていくことは確実ですので、検討していく必要性は十分承知しておまして、先を見ながらどう学校の定員を定めていくのかということは考えながら進めております。

教 育 長

その構想の中にも、例えば県境の高校、北杜、身延、上野原という所は、どうしても地元の高校生が集まりづらいので、標準的な望ましい規模よりも少なくとも維持しようという考え方は、その構想の中でも既にうたっています。これから考えなければいけないのが、委員がおっしゃるとおりに山梨県で望ましい人材あるいは地域の活性化のための県立高校の所在場所、本当に色々なことを含めて考えなければいけないと思っております。実は今回、工業系希望者の定員割れがあるという中で、やはり業界の方は非常に心配されており、このまま人材の輩出がどんどん先細っていくと困るんだという話もございまして、非常に問題意識を持っております。そういった意味でもどういう人材が必要なのかということをしっかり議論しながらやるのと併せて、子どもたちが希望するような努力もしなければいけないという話もしたところです。そういった努力もしながら、今回例えば工業系が減っていますが、次期構想に向けて今こういった形が望ましいのか。そもそも今の希望者の流れの中でいくと、どういう人数になるのかというようなことをシミュレーションしながら色々検討しようという作業を行っているところです。今回の構想が10年の構想になっていますが、その構想が終わるときには、その先どうするのかということも決めていなくてはいけませんので、先を見越しての作業というのは始めているという状況です。またご審議いただく時もあるかと思います。余談になりますが、工業系、建設や物づくりの業界は、最も人を欲しがっている業界だと思いますが、なぜ今回また下がっているのかという意見交換もいたしました。その中でやはりコロナ過でオープンスクールがしづらかったというようなことを学校現場も工業系の業界の方もおっしゃっていました。普通科は、どんなことをやっているか見なくても何となくイメージができますが、工業科に引き寄せるには、子どもにも保護者の方にも、現場を見てもらって、どんなことをやっていて、どんな将来が開けるんだということを直にPRする機会が欲しいんですというようなお話もされていまして。リアルのそういったことがなかなかしづらい時期ですけど、また一緒に工夫してやりましょうという話もいたしました。戦略的に先々のことを見ながら計画も進めてまいりたいと思っておりますし、一方で底上げを一緒にやっていきたいと思っておりますので、またそういった状況をお話しさせていただけたらと思います。

長 澤 委 員

確かにそういう議論が大事でしょうね。10年後に何人卒業するか、おそらくもう人数が分かっていると思うので。増穂商業の件に関わったのでよく分かるんですけど、学校の問題は確かに地域の問題でもあるから、簡単にはその学校をどうするという話ではできないこともあるのでしょうか。こういう学科を伸ばしていったということは、もう内々から慎重に、戦略的に決めていかないと大変なことだろうなと思いました。

松 坂 委 員

今、大学卒業者も働く人が非常に少なく、県内の色々な工業関係に就職希望することが非常に少なくなっています。その反面どんなことが起きているかというと、今ジェットロなどが中心になって、海外の人材の就職斡旋をかなり強力にやっています。それは海外にいる人ではなくて、国内にいる大学生の留学生を、日本に住んでもいいよという人たちをかなり強力に就職斡旋しているんです。それは山梨県の大学もちろんなんですけれど、山梨県以外の大学の人たちが結構募集しているんです。山梨県でも外国人材を募集すると全国から応募が集まり、日本語検定も取っているのが最近外国人材のほうが質が高いという話が結構出てきているんです。そのような現状が少しずつ今出てきているので、そういったことも考えると将来の山梨県の高校の戦略も非常に大事だし、戦略が見えるような仕組みづくりを作る必要があると思います。今までこう決めていたから結果こうなりましたというのでは遅い気がするので、今の実情を見ながら、例えば10年計画が良いのかどうかを考えていかないといけないと思っています。

岡 部 委 員

今年度の希望調査は7月、9月、12月に行うと思うんです。その状況を見てお作りになったと思うんですけど、私もオープンスクールのことを言おうと思っておりました。コロナ禍においてオープンスクールの在り方を、校長先生達は相当考えておられると思います。県教委から出されている冊子は大変分かりやすいんですけど、ただ子どもたちは8月の段階で自分の希望をどうするか分かっていない状況もあり、希望調査も少しあやふやな部分があると思いますので、やはりオープンスクールをどういうふうに作っていくか、どう目玉商品にするのか、学校の良いところをアピールしていけるよう、校長先生方にはお願いしたいと思います。

【原案どおり決定】

2 報告事項

(9) 訴訟の対応について

〔説明〕 高校教育課

(非公開：会議の要旨)

訴訟の対応について、訴訟の概要、要旨、今後の対応等の説明を受け、全委員の賛同により了知された。

【了知】

(10) 県立学校教頭の人事異動について

〔説明〕 高校教育課

(非公開：会議の要旨)

人事異動について、事案の説明及び名簿の提示があり、全委員の賛同により了知された。

【了知】

3 その他報告 な し

〔 教育長閉会宣言 〕

以 上